

課題名	27 野菜の加工適性と栽培条件	分類	①
	(2)野菜ジュース用ニンジンの品種と収穫時期		
試験研究年次	63~2年(完了)		
I 目的			
ジュース原料用ニンジンとして、収量や内容成分に優れた品種を選定するとともに、収穫適期について検討し、加工用野菜栽培技術の資料とする。			
II 試験方法			
1 供試品種			
1年度 ‘黒田五寸’ ‘陽明五寸’ ‘紅山五寸’ ‘紅昭五寸’ ‘いなり五寸’ ‘T号越冬五寸’ ‘菊陽五寸’			
2年度 ‘黒田五寸’ ‘夏まき鮮紅五寸’ ‘陽明五寸’ ‘紅山五寸’ ‘紅昭五寸’			
2 耕種概要			
1年度 栽植密度26,000株/10aで、8月10日に播種し、播種後132日(12月20日)に収穫した。			
2年度 栽植密度53,000株/10aで、8月30日に播種し、播種後92日(11月30日)、111日(12月19日)、137日(1月14日)、153日(1月30日)、172日(2月18日)に収穫した。			
3 試験規模			
1区 1.5㎡ 2反復			
4 施肥量(10a当たり)			
N=19kg、P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> =20kg、K <sub>2</sub> O=23kg			
III 主要成果の概要			
ジュース原料用ニンジンとしては、収量、糖、カロチン含量が高い‘陽明五寸’が適している。また、8月下旬に播種した場合、‘陽明五寸’の収穫適期は播種後150日前後である。			
1 ‘陽明五寸’及び‘紅昭五寸’は根重が高く、加工用として高い収量が得られる。また、‘陽明五寸’は糖含量が高く、根重が増加する生育後半にカロチン含量が高くなる。			
2 ‘陽明五寸’は、8月下旬に播種した場合、糖含量は播種後約150日に最も高くなるが、播種後172日目にはやや低下する。搾汁率は、播種後172日までに低下は認められない。			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 収量及び内容成分 (1年)

品種名	収量	平均根重	全糖	カロチン
	t/10a	g	%	mg%
黒田五寸	5.9	227	6.6	9.0
陽明五寸	5.9	228	6.4	10.1
紅山五寸	5.9	225	6.5	8.4
紅昭五寸	5.8	222	6.1	8.6
いなり五寸	4.4	169	6.8	9.1
T号越冬五寸	5.2	201	6.7	8.9
菊陽五寸	4.8	189	6.5	10.8

注) 8月10日播種、播種後132日目収穫

第2表 収量及び根重の変化 (2年)

品種名	収量(t/10a)					根重(g/本)				
	播種後日数					播種後日数				
	92日	111日	137日	153日	172日	92日	111日	137日	153日	172日
黒田五寸	4.9	8.5	11.8	10.6	13.3	92	160	222	225	250
夏まき鮮紅	5.8	8.9	10.9	12.7	15.0	110	168	206	240	285
陽明五寸	6.8	9.4	13.2	13.8	16.2	129	178	250	260	307
紅山五寸	4.6	9.4	12.4	12.5	14.2	87	177	234	236	268
紅昭五寸	4.9	9.6	12.4	14.3	16.7	93	181	234	271	316

注) 8月30日播種

第3表 内容成分及び搾汁率の変化 (2年)

品種名	全糖(%)					カロチン(mg%)					搾汁率(%)		
	播種後日数					播種後日数					播種後日数		
	92	111	137	153	172	92	111	137	153	172	92	111	172
黒田五寸	3.5	4.9	6.3	6.8	6.3	7.7	8.3	7.3	6.2	6.7	80.4	82.2	84.7
夏まき鮮紅	4.4	5.1	6.9	7.6	6.7	4.9	6.7	6.3	5.7	6.0	82.4	85.2	85.6
陽明五寸	4.5	5.1	7.1	7.9	7.2	7.0	7.1	7.8	7.6	7.6	79.3	79.0	83.4
紅山五寸	4.5	5.3	6.6	7.8	6.9	7.3	6.8	6.8	8.2	8.2	76.9	79.3	83.8
紅昭五寸	4.0	4.8	6.5	7.4	6.7	7.5	8.0	7.4	7.2	8.3	80.4	80.4	83.8
(LSD)	0.6	-	-	0.5	0.3	0.5	0.4	0.4	0.4	0.5	2.5	3.1	-

注) LSD:有意差5%

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 ジュース原料用ニンジンの栽培指針として活用する。
- 2 加工用ニンジンは生食用と異なり、収量を上げるために大きな株になるまで収穫しない。したがって、栽培期間中は肥効を切らさないように注意する。

VI 今後の研究上の問題点

施肥技術の確立

VII 資料名

- 1 63~2年度 福岡県農業総合試験場園芸研究所 野菜試験成績書
- 2 1~2年度 福岡県農業総合試験場生産環境研究所 流通加工試験成績書